日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな〜れ
179号
2016年9月
部内資料
発行責任者　太田　勅　(62-5727)
議員連絡先　うすい孝彦　(62-5093)
服部　久子　(62-4357)
編集責任者　山本　久子　(61−1066)

安倍政権の「だまし討ち」
選挙で一切沈黙、過ぎれば暴走

安倍政権は7月の参院選では「争点は経済だ・アベノミクス推進」「野党共闘は野合だ」というのみで、具体的な争点を国民に示しませんでした。ところが選挙が終わりまだ2ケ月というのに、次々と重要課題に着手する「だまし討ち」をしています。

安保法制＝戦争法

戦争法強行成立から一年、自衛隊の国連平和維持活動（ＰＫＯ）での「駆け付け警護」「宿営地の共同防護」などの新任務の訓練開始を決定し、戦争法の本格的発動を進めています。

自衛隊宿営地の横で戦闘が行われている危険な南スーダンで、11月から新任務付与を狙っています。

憲法改定

「選挙で憲法を争点とすることは必要ではない」と選挙活動ではいっさい語りませんでした。しかし選挙直後7月11日の会見で「国会の憲法審査

共謀罪

公約に一言もなかった「共謀罪」創設が浮上し、何回も提出を見送ったものを「テロ等組織犯罪準備罪」と名称を変え、9月に召集される臨時国会に法案を提出しようとしています。

犯罪が行われていなくとも共謀したというだけで処罰し、思想・信条を取り締まるものです。捜査当局の解釈次第でいくらでも拡大され、市民への弾圧に悪用される恐れが十分あります。

沖縄米軍基地

「沖縄県民に寄り添う」「県と話し合っていく」と言っていましたが、開票日翌日の11日早朝、東村高江で米軍ヘリパット＝オスプレイパット（着陸帯）の建設工事に着手し、強権的に住民らを排除するため、全国から機動隊を多数派遣し、自衛隊の大型ヘリを投入しています。選挙では沖縄選出の現職閣僚が落選し、民意は明確に示されています。

ＴＰＰ

一昨年の総選挙時の自民党ポスター「ＴＰＰ断固反対、ブレない、ウソつかない」に批判が集中したため、広報では何も触れませんでした。しかし「臨時国会でＴＰＰ批准を目指して全力を尽くす」となりふり構わない態度です。

アメリカの大統領候補二人とも慎重姿勢なのに、日本だけがなぜ、先走りするのでしょうか。

安倍暴走政治にストップをかけ、国民生活を最重視する政治に変換させましょう。

コラム 有明

ニューヨーク・タイムズ前東京支局長のマーティン・ファクラーさんが書いた『安倍政権にひれ伏す日本のメディア』を読んだ。▼ファクラーさんは言う。「日本のメディアは、第二次安倍政権誕生以降、腰砕け状態に陥ってしまっている」「官邸の記者たちは、権力側からの管理によってあまりにも縛られ、またそのことに慣れすぎている」。この本は「このごろの報道っておかしくないか」と思う私の疑問に応えてくれた。▼大新聞のトップが安倍首相と料亭で会食しているという。ジャーナリストの矜持はどこへ行ったのか▼いま放送されているＮＨＫの朝ドラで『暮しの手帖』の編集長だった花森安治氏（ドラマでは花山伊佐次）が45年前に書いた言葉をかみしめたい。▼民主主義の「民」は、庶民の「民」だ。ぼくらの暮しをなによりも第一にする、ということだ。ぼくらの暮しと企業の利益とがぶつかったら企業を倒す、ということだ。ぼくらの暮しと政府の考え方がぶつかったら政府を倒す、ということだ。▼ＮＨＫがこの時期にこのテーマをとりあげきちんと放映していることに感謝したい。

シリーズ 池田町の歴史探訪

第5回 塩の道・池田編を歩こう

中島　牛越　邦夫

人の生活に不可欠な塩は、日本では岩塩がほとんどないため海の塩に頼っていました。信州の塩は遠く瀬戸内で製塩され、関門海峡を経て能登を迂回し、糸魚川にて陸揚げされました。ここから人力、牛・馬により松本まで１２０ｋｍ運んだ道を、「千国街道（ちくにかいどう）塩の道」と呼びます。

上り荷（南荷）と下り荷

塩の道を往来した諸物資は日常品全般に及び、信州に向けては上り荷（南荷）と言い、海抜０メートルからいくつも峠を越え７００メートルの地域へ運ばれたもので、荷は塩、海産物・主に干物、菅笠、薬、高級品の輪島の膳・椀、唐津の焼き物に至る多種多様なものでした。松本・安曇からの荷は下り荷（北荷）と呼ばれ、麻を主に茶、紙、綿、コウゾ、大豆、酒、こんにゃく、元結など上り荷より多彩でした。

塩の道まつり

毎年５月３日～５日に小谷、白馬、大町で開催されている「塩の道まつり」は、今年37回を数えました。全国から時代衣装を工夫して歩く人も含め、延べ５～６千人が参加します。千国の名称は鎌倉期初頭の「吾妻鏡」に記されているそうです。ヒスイや黒曜石の流通を考えると遙か古い時代に遡るロマンがあるからでしょうか。また、時間が止まったような昔と変わらない風景と、地域ごとにお休み所が５～６ヶ所設けられ、湯茶、漬物、赤飯、果物などのおもてなしに人気があるようです。

池田を通った塩の道

大町の仁科神明宮から正科―堀之内―中島―５丁目―１丁目―豊町―林中―内鎌―十日市場―追分まで10．５ｋｍが池田の塩の道です。

高瀬川は高瀬橋付近に十日市場から島新田（追分）に、丸太橋が架けられていたことを「善光寺道名所図会」は描いています。

途中には鬼の釜遺跡、八幡神社、浄念寺、牛つなぎ石、観音堂、宇佐八幡宮、川合神社などがあります。

しかし何と言っても信仰の山「有明山」を身近にし、雄大な北アルプスを一目で見られるのが池田町塩の道の魅力です。池田の飴市（初市）は２月１～２日に行われます。昔の塩市を起源とする言い伝えがありますが、証拠となるものはありません。

降雪期の１～２月は塩の運搬は無く、塩市を開くことは無かったことから、塩と飴とはゆかりがないとのことです。（池田町歳時記・仁科宗一郎著）

上杉謙信の義塩

「敵に塩を送る」謙信の戦国美談ですが、どうも史実ではないようです。今川・北条が甲州への塩路を絶ち、武田信玄の領民を苦しめたことに対してですが、謙信の人柄・人望から後世で作られたと言われています。

路傍の石仏

塩の道のいたるところに石仏があります。最も多いのが馬頭観音です。家族同然に共に生活しお世話になった馬、旅先で死んだ馬を供養して建てられています。池田全体で５００基、全国では１００万基を遙かに超えると言われています。

双体道祖神

道祖神は道の悪霊を防ぎ旅人を護り、村人が豊作を祈願し、夫婦和合の神であり、子供祭りの対象でもあります。

豊町観音堂には、手を握り肩を抱き寄せ合って立つ、立派な男神・女神像の双体道祖神があります。

１丁目交差点近くに牛つなぎ石があります。宿場や水飲み場などいたるところにあったようですが、今は少なくなりました。街道時代を象徴する一つとして大事にし、祭事の折には注連縄を張ったりしています。

「塩の道」は地域文化の発展に貢献しました。物流だけでなくさまざまな技術や流行、信仰や芸能、風俗をも運びそれぞれの地域に根付かせました。「塩の道」を見直し将来に伝えていくことは、地域の伝統的な文化を守ることにつながると思います。